

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090300093		
法人名	社会福祉法人 山栄会		
事業所名	グループホーム 諏訪形		
所在地	長野県上田市諏訪形字中山田1694-4		
自己評価作成日	平成22年11月10日	評価結果市町村受理日	平成23年4月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090300092&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運動機能の維持向上をめざし、基本理念に則り、できる限り自立した生活が継続できる様、利用者のもてる力、生きる力に寄り沿い共に生きていこうとする姿勢でケアを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、上田の市街地を見下ろす高台の住宅に囲まれた坂の途中にあり、陽当たりもよく新築の建物であり、系列のディーサービスと棟続きであり、デイには大浴場や特殊浴槽が設置されている。運動機能の維持向上は、毎日の生活の中からと考え、自由にホームの建物の外を一周できるように配慮したり、入浴時の湯船への出入りの体の使い方、トイレでの便座からの立ち上がり方など体の使い方に気を配り、特別な運動の時間をとるのではなく、毎日のケアが運動機能の向上となるように実践を心がけている。開設されて2年であるが、近隣の地域の方との無理のない関係も築かれており、毎日散歩にくる近所の犬のジョンとサスケを通しての地域の方との交流や小学生との交流もされている。運営推進会議も、市の担当者の参加や、利用者や地域の方々の闊達な意見交換の場となっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分らしくある実在の感覚を尊重して、研修内容を活用し、日々の日課を充実したものにしている。	平成22年の4月に、職員全員で苦勞の未、作りあげたばかりの3つの目標理念が玄関に掲示されている。その理念に基づいた絵が描かれ、食堂に貼られ、理念の共有が図られている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が社会人としての自覚が持てるよう、御近所の方々や犬の散歩途中の立ち寄り、農作物の授受等、交流している。	開所してから2年だが、事業所は地域とのつながりを重視して、無理なく関係を持っている。毎日犬を連れて散歩に立ち寄る方を心待ちにしている利用者達や、自治会長さんも折にふれて立ち寄ってくださっていると伺った。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での意見提言を今後の活動に活かすべく、方向性を探っている。思い出歩きへの協力。要請に対する連絡網の整備、ネットワーク化等。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上記と重複 地域との交流の場と位置づけ、忌憚のない意見として、地域の公共場所の草取り作業等への参加要請があったので、検討中である。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。参加者からも活発な意見や質問が出され、参加している利用者からも利用料について質問が出されていた。そこでの意見を、検討し、検討結果の報告が次回の会議に提案されている議事録を拝見した。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護事故報告の内容や再発防止策等の具体的思案など、積極的に相談に伺い助言を受けている。ニーズの発見等、地域ケア介護の席上でも行政関係者からの実情把握情報を活用している。	市の担当者とは連絡をこまめに取っており、運営推進会議には、包括支援センターの職員だけでなく、市の高齢者福祉課の担当者も原則参加している。市のグループホーム部会に参加すると共に、センター方式の研修にも出席している。	

外部評価結果(グループホーム 諏訪形)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門扉は恒常的に誰でも開閉でき、施錠は行わない。夜間は建物内の安全は警備保障会社と連携し、安全は確保されている。	身体拘束のもたらす弊害について、代表者は十分に理解し、安全性に配慮しながら、拘束しないケアに取り組んでいる。家族からの安全のために拘束を望む声にも、拘束による心身への影響を説明し、身体拘束をしないケアへの理解を求めている。思い出歩きとして、敷地外にでしてしまう方のために、現在、近隣住民の協力を得ながら、対策としての連絡網などを作成中であると伺った。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業者連絡協議会が開催する研修に参加し、理解を深めている。理念に基づき、人権的対等の関係を心がけている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年は松本であった研修に参加し、学ぶ機会を得た。利用者に一名、成年後見制度を利用されている方が居る。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間を費やし、締結の際は不安や疑問点が後のトラブルにならない様、説明に納得を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	料金の支払方法に関する意見について、運営に反映される様、役員に進言している。	運営推進会議で出された利用者からの利用料に対する意見は、繰り返し説明を行い、理解に努めていた。苦情、相談箱が玄関入り口の目立つ所に設置されているが、投書はまだない。6月より、2名の介護相談員が隔月に来所し、利用者が相談している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティング、全体会議などで、必要な連絡事項のほかに、自由闊達な議論が出来る様、雰囲気作りに努力している。	職員の意見の反映は、毎朝のミーティング、連絡ノートの活用、月に1回の全体会議、第2水曜日のカンファレンスなどを活用している。管理者だけでなく、主任も相談にのっており、所長とのパイプ役も果たしている。	

外部評価結果(グループホーム 諏訪形)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>必要な研修、受けた研修について、各自が向上心を持って臨み伝達。研修の場を通じ、チーム形成に貢献している。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月ごとのシフトの運用において、研修参加や、主体的活動への考慮を調整に活用している。チームの相互関係でも勤務変更により、研修参加機会を確保している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>サービス事業者連絡協議会の研修時、会場となった施設内を見学させて戴く機会の中で、交流している。</p>		
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>生活史の尊重や、本人の主訴の中の言葉を共通言語とし、馴染の関係が創れる様、努力している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>センター方式のアセスメント項目の他、利用に至るまでの経緯を傾聴し、必要な手続き、使える社会資源等、提示し最良の方向性を信頼関係の中で導き出している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>主治医の決定や福祉用具の適切な利用購入等に関し、誠意を持って負担にならない様考慮し、対応している。</p>		

外部評価結果(グループホーム 諏訪形)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理場面や、簡単な作業、掃除など安全を確保した上で積極的に参加してもらっている。小さな達成感や役割意識は充実した日課につながっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いは親族の安否への要望が主になる場合が多い。たとえ、亡くなってしまっている存在でも、言い方・伝え方を工夫し、可能であれば、見舞い訪問を働きかけている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣者のサポートは何より心強いものであり、状況を正しく理解されている方が訪問し易い様、時間帯や頻度に無理が無い様設定している。	利用者は近隣の方が多く、利用者の隣の方が不在となった家の郵便物を届けてくださったり、訪問もできる範囲でお願いしている。施設側も、近隣者の方の負担にならないように配慮しながら、支援していると伺った。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルの情景や事由を分析し、席替えや、トイレとの距離、位置関係などカンファレンスの中で常に検討している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでにサービス終了者からの相談は受けていない。		
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や暮らし方の意向などは、うまく表現できない方も多く、擁護的に意向を汲み取っている。	思いや意向の把握は難しい面もあるが、日常のケアの中で、記録をとり、振り返りながら、カンファレンスの中で検討している。墓参り、ドライブで松茸を買いに出かけたり、回転寿司に出かけたりなど、非日常の機会を作って、一人ひとりの思いや意向の把握の助けとしている。	

外部評価結果(グループホーム 諏訪形)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	懐かしい歌など、聴いたり歌ったりする活動の中で、回想法を意図的に駆使し、時代背景を知ったり、時々判断根拠として、役立てている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、排泄、入浴などの生活行動が有する能力として苦痛は無いが、もっと楽に出来ないかなどの視点でアセスメントしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスの中で、良循環となるきっかけを模索し、本人の生活意欲を引き出したり、成功場面をさらに高め、多様な方向で計画作成を行っている。	毎月のカンファレンスでは、全員の介護計画について、夜勤以外の全職員で検討されている。担当者は決まっていますが、全員で計画作成に参加している。評価方法については、現在、試行錯誤しながら、取り組んでいる。書式が整っていないので、評価が計画見直しに活かされにくい。現状に即した介護計画に見直されるように、書きやすく、ポイントを絞った評価の書式が望まれる。	センター方式で、課題分析や介護記録を作成しているが、評価の書式が定まっていないため、現状に即した介護計画への見直しが不十分である。より、使いやすい評価の書式の作成が望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践記録をもとに月ごとのモニタリング情報により、計画内容を変更している。「達成可能な条件」とし、具体的方法を検討している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのもつ、生活歴を尊重し、個別の文化活動を支援する、取組の構想を検討している。毛筆書道、手芸、染物、絵手紙の制作など、継続的にファシリテートできる人を探している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	最寄の小学校児童との交流は、心身の力が発揮できる場であった。伝承すべき手遊びなどにより、暮らしが楽しくなる機会となった。		

外部評価結果(グループホーム 諏訪形)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	予防接種や受診、検診など、最寄の医師との良好な関係が築かれ、利便性、迅速性など本人・家族から満足を得ている。	協力医のみならず、利用者の昔からの馴染みの医師を主治医とする方もあり、それぞれの希望を大切に受診の支援を行っていると同った。また、デイサービスの看護師とも連携して支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護診断により、適切な処置、医療との連携が出来ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	服薬内容の看診断により、適切な処置、医療との連携が出来ている。服薬内容に対する効用・効果・処方方法の確認など、介護支援専門員協会備え付け書式を使い、連携を取っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	予後の予測は、チーム内の共通情報を基に充分議論した上で家族に伝え、必要があればサービス担当者会議を開き、医療を含めた見解により結論を出している。	入居時には事業所としての方針(身体的に重度化したら特養や他へ退去)が説明され、ご家族も納得されていると同った。重度化や終末期などの利用者の変化に応じて、事業所としての家族への繰り返しの説明や、チーム内の情報の共有を行い、チームとしての支援が望まれる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	太田仁史・三好春樹著「緊急対応マニュアル」を手近な場所に備え、関心を常にもつことで心構え、具体的・方法・技術・知識を高めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害危険地域に指定されているため「地域密着型」の主旨をふまえ、火災を想定した、消防活動、避難誘導訓練を頻回に行い、自治会とも避難場所等具体的事項において、協定書を結び確認している。土砂災害については、通報連絡をシュミレーションし、有事に備えている。	災害時の想定を行い、自治会とも協定書を結び、確認を行っている。契約の警備保障会社も、火災だけでなく、自然災害時にも心強い存在である。火災の避難訓練は、3、9、12月に実施されているが、夜間や自然災害に向けての訓練はやや不安が残る。	自然災害時に備え、自治会と共に、市の防災担当者とも直接、連絡を取り合い、避難勧告等の情報が迅速に施設に連絡されるよう確認することを望みます。

外部評価結果(グループホーム 諏訪形)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応をしている	その人らしさを尊重する上で、その方の良いところや自信を持って行っていることを賞賛し、生きがいに通じる様、誠意を込めた言葉がけに心がけている。	管理者の丁寧な言葉がけや物腰のやわらかな態度は、接した職員に共通しており、市販の本を活用しての毎朝の輪読や挨拶の練習は実践に活かされている。個人の記録、排泄管理表なども、プライバシーに配慮しながら、置かれていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「家に帰りたい」思いは利用者全員にある。現実的に可能な限り、外泊の希望を実現させている。不可能であっても思いを汲み取り、本人がこの場に居る事が幸せと実感してもらえる様言葉がけを工夫している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課としての自由時間は多くとっている。テレビ観賞、戸外の散策、身近な話題の談笑、席に強制的に座らせることは無い。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師の訪問により、散髪し、衣類もお気に入りの服装をして戴く様、心掛けている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体的、機能的に可能な利用者にキッチンに入っただき、割ぼう着等身支度を整え、切る、煮る、味みなど共に行い、食事を楽しんでいる。	献立は系列ケアハウス用に管理栄養士がたて、計算されたものを参考に作成している。準備は、ほぼ半数の利用者が参加し、職員と共に準備をしている。時には、玄関脇の外のスペースでの焼きそばや、回転寿司に出かけるなどの、非日常的な食事も楽しまれている。	利用者の声を聞きながら、時には季節を感じられるような独自の献立作りが望まれる。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がたてた献立をベースに量・食べ易さ・好みを個別に配膳し、摂取量や評価を記録している。傾向を観察し、計画し対応に活かしている。		

外部評価結果(グループホーム 諏訪形)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所にポリドント他歯磨き用具一式を置き、口腔内を清潔に保てる様、言葉をかけ習慣的に口ゆすぎが出来る様、支援している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表の記録を活用し、尿意を我慢させない様、空いているトイレを伝えたり、気持ちよく排泄行為が完結する様支援している。リハビリパンツから布パンツへ自立できる様取り組んでいる。	リハビリパンツ使用者には、さりげない観察や記録の活用から、布パンツへまたは少量の尿パットになるように支援に取り組んでいる。脱水予防を心がけることで、排泄の自立につながった例もあった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	原因となる運動不足・食物繊維不足・水分不足・ストレス等、個別性に配慮し、規則的な生活習慣の構築に心掛けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活の全体性・継続性の観点から規則正しい生活が送れる様入浴日は曜日ごとに週2回とプラン(サービス計画)で位置づけているものの入浴時間は希望に添えている。今後、運動機能向上も含めた自立生活への取組として、所要時間の拡大を検討している。	入浴は週2回を原則とし、月に1回は、隣のデイサービスの大浴場に出かけており、皆さん楽しみにされている。事故予防と運動機能の向上もかねて、湯船の出入りはまたぎ方を徹底して、必ず職員の見守りを実行している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を充実させ、午睡のすすめや夜間の熟睡のための湯たんぽでの保温を実践している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療との連携の中で、処方箋に記された薬の内容を個別に一覧したもので管理し、効用を理解し、効果を観察している。これまでに、便秘薬の重複服用により、医療と連携し、用量が減量し改善された事例がある。皮膚疾患についても同様に適切な用法観察により、治癒されている。		

外部評価結果(グループホーム 諏訪形)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物が上手な方にキッチンで使う台拭きや、洗面所用雑巾などを縫って載っている。御近所ですぐにいただいた柿を干し柿にする事となり、皮をむき、つるす、一連の作業はとても見事なもので、感動した。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	合理性のある外出の申し出は、時間を作って同行したり、御家族の協力を要請する等して、実現させている。日用品の個別の買い物等は、本人と同行し、外出している。	敷地内は玄関や裏口から自由に出入りし、歩き回れるように、配慮され、昼間は、玄関も入り口も開放されている。お散歩も危険の少ない場所まで、車で出かけるなどの配慮がされている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の能力に応じ、貴重品として、小遣い程度の金額を家族から預かり、本人の了解を得て、居室の鍵のかかる引き出しで管理し、出納帳をつけている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが心を込めて、家族宛に書かれた直筆の手紙を送っている。電話を掛けて欲しいとの要望には頻度や家族の負担も考慮し、可能な限り対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からの採光・冷暖房等、空調を快適な環境を保つ様子を配っている。外気との温度差や室内の湿度も不快にならない様、衛生面からの注意事項を守り、健康的に過ごせる様工夫している。	玄関には、季節の花が飾られていた。食堂は天窓もあり、明るく、空調は天井から吹き出ており、安全に快適な環境に保たれている。食堂はオープンキッチンに面しており、家庭的な雰囲気である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の個性を尊重し、話題や思いに共感理解が深まる様、居場所の適性について工夫している。例)・テレビが良く見える。・トイレが近くにある。・共通の話題や意思疎通が楽しみとなっている。		

外部評価結果(グループホーム 諏訪形)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に持ち込み品に制限はしていない。馴染みのものは積極的に身の回りに置いてもらい、良好な関係づくり、気分の安定に役立っている。	居室には、その人なりの思い出の品などが持ち込まれている。職員が一方的に整頓することはなく、その人それぞれの居心地のよい空間となるよう、職員は配慮していると伺った。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「歩く」機能維持向上のため、戸外活動を重視して、太陽光浴、建物の周りを歩くなどを注意深く見守っている。道路への歩き出し、側溝への踏みはずし事故への対策が課題となっている。		